# 2021年度（令和3年度）事業報告

## 運営に関する事項

(1) 理事会・評議員会の開催

○第1回理事会　6／7　令和2年度事業報告及び決算報告についてほか(中央センター)
○第1回評議員会　6／24　令和2年度事業報告及び決算報告についてほか(中央センター)
○第2回理事会　12／13　令和3年度上半期事業報告、予算の補正ほか(中央センター)
○第3回理事会　3／14　令和4年度事業計画及び予算についてほか(中央センター)
○第2回評議員会　3／16　令和4年度事業計画及び予算についてほか(下京センター)

(2)KES認証の継続

2008(平成20)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続(確認審査合格)し、環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。

(3)SDGs に沿った事業・組織運営の検討

SDGs に関する職員の理解を深めるとともに、全事業項目において SDGs との関連を明確にして取り組んだ。

(4)働きがいのある組織づくりへの取組

GPTW「働きがいのある会社調査」を依頼。全職員向けアンケート実施と、その結果に基づき全体研修、管理職対象の働きがいワークショップの実施等、より良い組織づくりに取り組んだ。

(5)新型コロナウイルス感染症対策の取り組み

○行政の対応の変化にあわせ、協会でも対応を柔軟に変化させながら対応した。
○感染対策に基づいた施設運営・事業実施のあり方を検討、実行した。青少年活動センター休館期間には事業所横断でのオンラインの取組に努めるなどした。
○ワクチン接種に係る職免対応や、保育施設の休所等による子の看護が必要な際の職免など、必要な状況にあわせて対応できるよう取り組んだ。

## Ⅰ．協会（本体）事業

京都市からの補助金及び協会自主財源を原資として以下のように実施した。

### 1．ネットワーク形成事業

若者の成長を支援する様々な団体や機関の活動が、有機的につながることを目的として実施した。

**（1）若者に関わる担い手育成**

**①ユースワーカー養成（基礎）講習会**

○今年度は一度延期したが、例年通りの2日間開催（11 月 28 日・12 月 4 日）で実施した。

**②若者に関わるスタッフの機関合同研修**

○都市型ユースセンターを運営している他都市（札幌・横浜・名古屋・神戸）の団体と合同で新人ユースワーカーのふりかえり研修（10月21日）を実施した。

**（2）若者に関わる機関・団体・人のネットワーク形成と連携を拡げる事業**

**①外部機関・団体と構成する実行組織への参画**

協会の持っている“資源”をもって、オンライン等の手段も活用し、外部機関・団体との連携・協力を行った。

○行政機関、他団体に委員等を派遣した（市関連／市教委関連／他公益団体関連のうち主なもの）

＊京都市はぐくみ推進審議会（委員（会長））
＊京都市子どもを共に育む市民憲章推進協議会（委員）
＊京都市児童生徒登校支援連携会議（委員）
＊京都市男女共同参画推進協会（外部評価委員）
＊京都市国際交流・多文化共生審議会（委員）
＊京都市HIV感染症対策有識者会議（委員）
＊京都市国際交流協会（評議員）
＊京都市社会福祉協議会（評議員）
＊京都市児童館学童連盟（理事）
＊チャイルドライン京都（理事）
＊京都YMCA（評議員）
＊京都キャンプ協会（理事）
＊京都ユースホステル協会（監事）
＊京都市福祉ボランティアセンター（運営委員）
＊京都市市民活動総合センター（運営委員）

**②青少年育成・支援団体との事業共催・後援・協力**

○各育成団体・外部機関・関係団体からの希望に応じて共催・後援・協力をした。

＊実施の際には、ユースサービス／センターの広報等への協力をいただいた。

### 2．情報発信事業

若者や若者支援にかかわる団体・市民を対象として、その取り組みやかかわる人・団体について情報の受発信に取り組んだ。

**（1）若者へのボランティア情報の発信**

○ボランティア情報の発信

＊ユースアクションイベントガイドの紙面発行と、WEB更新による発信を行った。

＊学習支援事業や各センター事業のボランティア説明会の実施と、それに伴う情報発信に取り組んだ。

**（2）若者に関わる情報の受発信事業**

○広報誌「ユースサービス」の発行。

＊想定する読者（18歳以上）に向け、各事業所と連携した企画・取材を取り入れて記事の充実を図った。

＊第38号～第39号を発行（4，000部）し、関係団体や個人、学校、大学他公共施設・機関に配布した。

＊第38号／10月号　特集「子ども・若者ケアラー」　＊第39号／2月号　特集「ユースワークを考える」

### 3．市民参加促進事業

青少年が「市民社会」の主体となる“市民”としての経験・学習の機会提供を目指す事業として、シティズンシップ事業の開発、仕組みづくりに取り組んだ。

**（1）シティズンシップ教育につながる事業の実施**

○協会独自のシティズンシップ教育事業の開発・実施

＊京都市における「行財政改革」の策定に関する市民意見募集に関連して、勉強会・意見交換会を実施した。対面会場では終了後にパブリックコメントを書く機会、初対面同士の交流が生まれた。

＊10～12月に成年年齢の引き下げに関する活動を実施。3グループにより若者の声を発信する企画を立案。これらの企画をもとに1月16日に「cafe18　いつから大人？いつまで子ども？」を実施した。

(2)ローカルユースカウンシル設置運営

○若者からの視点で継続的な政策提案や市政参加ができる仕組みづくりとして体制づくりとメンバー発案による5つのプロジェクト、外部からの委託としてラジオ番組が稼働、SNS等での広報活動を実施した。

＊新居場所チーム：月1回程度、中央青少年活動センターのロビー利用者を対象とした交流企画を開催

＊町家チーム：空き家問題と10代の居場所の少なさの問題に対して若者の基地づくりに向けた活動を展開

＊YouTube チーム：ユースカウンシル京都の広報活動として他チームの魅力発信に寄与し活動展開

＊しゃべりばチーム：高校生を対象に進路を身近に考えられる場としてゲストを招いた座談会を開催

＊府知事選挙啓発：令和4年度の府知事選に向けてSNSと全青少年活動センターで啓発活動を展開

＊上記とは別に三条ラジオカフェからの委託により、環境省「COOL CHOICE」の一環として、ラジオ番組「eco活」、オンラインイベントを実施。

## 4. 新たな社会的ニーズに対応した事業の展開

新たな事業展開の機会をつかみ、社会的要請を先取りするための調査・研究活動、仕掛けづくりに取り組んだ。

(1)学校連携事業

○京都奏和高校・伏見工業高校（定時制）内での学校内居場所事業を実施。緊急事態宣言等の発出を受けて、活動休止となる期間が複数あったため、昨年度よりも実施回数は減少した。

○京都奏和高校における新入生向け交流プログラムの実施、奏和タイムにおける生徒同士の交流、地域資源との交流を意図したプログラム「Quintetto」を実施。こちらも緊急事態宣言等の影響から学校側の判断により中止となる期間が複数あった。

○花園高校の新入生向けプログラムの実施や京都すばる高校との連携など高校との連携に取り組んだ。

(2)調査研究や新たなニーズに対応する取組みの具体化

○若者の置かれている状況やニーズを把握することを目的に、「コロナ禍における大学生へのアンケート調査」「若者の夜の過ごし方に関するアンケート調査」を実施した。

○若者の夜の居場所づくりとして、助成金を獲得し「夜のユースセンターモデル事業」を実施した。

＊INDÈPENDANTS for Youth： センターのロビー機能や「若者食堂」としての食事提供、フードパントリー、フードチケットの配布、若者による自主企画・ワークショップの実施など各種コンテンツを盛り込みつつ、カフェを用いたオープンアクセスな場づくりに取り組んだ。

＊同時代セカンドハウス：泊まれる夜のユースセンターを目指して、一軒家を拠点に、家のようなくつろげる空間での居場所づくりに取り組んだ。

＊調査研究：夜の若者の過ごし方についてのアンケート調査や上記事業参加者へのアンケート・聞き取り、鴨川周辺の巡回調査等、若者の夜の過ごし方やニーズについて調査した。

＊ネットワーク形成（連携会議）：京都市域の関係団体との連携会議を実施し、情報を共有するとともに、知見や助言を得る場を設けた。

## 5. ユースサービスの普及、事業開発にかかる取り組み

(1)ユースワーカー養成・資格認定事業

①基礎講習後の修了認定コースの運営

○基礎講習修了者を対象として修了認定コースを設置運営した。

＊ガイダンス6名参加、2022年度受講予定4名

②ユースワーカー協議会の事務局運営と参画、ユースワークの基盤強化

他都市のユースワーク実践団体（5団体）とともにユースワーカーの職能団体を運営した。

＜幹事団体＞（公財）さっぽろ青少年女性活動協会／（公財）よこはまユース／NPO法人こうべユースネット
名古屋市青少年交流プラザユースクエア共同事業体／（公財）京都市ユースサービス協会

○ユースワーカーフォーラム＠名古屋を2／11に実施

○オンライン実践交流サロンの実施　8／5『ユースワーカーはどう若者の権利を保障するのか？』、1／27『夜のユースセンターやってみた』、3／17『札幌 Youth＋の居場所づくりの取り組み「いとこんち」＆「夜回りカフェ部」』）　＊また、令和3年度「尼崎市実践者交流会」の実施協力。

○ユースワーカー養成講習会を3か所（尼崎・兵庫・名古屋）で実施。また、別途依頼によるユースワーカー研修を岡山で2回、兵庫で1回実施。

○子ども・若者専門職養成研究「若者領域」への協力、ハンドブック作成・発刊。

○相互 SV を実施。昨年度の個別 SV に加えて、階層別・グループ SV を設置。

(2)インターンの受入れと調整

①実習生／インターンシップ受入・指導事業

各大学等からの依頼に応じ、インターン・実習生の受入を行うとともに、協会独自インターンを募集・受入。

○インターンシップ：大学コンソーシアム 4名（北・南）、京都女子大学大学推薦型2名（北・下京）、
京都橘大学就業型（山科1名、中央1名、伏見2名、北1名）

○立命館大学ユースワーカー養成プログラム：6名（北・山科・南・伏見・協同・サポステ） ☆追加1名神戸

○社会教育実習：天理大学 2名（南・事業担当）、京都女子大学 1名（南）

○社会福祉実習：同志社大学 1名（支援室・サポステ・事業担当）

○公認心理師実習：京都橘大学 2名（山科）

○京都産業大学ボランティア実習：19名（北・下京・南・伏見・事業担当）

○協会独自インターン：（有償）3名 ※内1名は修了なし、（無償）2名

(3)調査・研究事業

①立命館大学との共同研究

○昨年度からの継続で、ユースワークの定義化に取り組み、11月に研究会版（京都版）定義を策定・公開した。そのため部会とともに定例研究会を実施した（全6回）。
また、完成した定義をもとに、職員への説明・協議機会を持つとともに、若者への説明・協議機会を設定し、定義の拡充に向けての動きを持った。

○大学院においてユースワーカー養成プログラムを実施（修了5名）。各事業所において実習を受け入れた。

○若者学研究会を開催し、若者自身による探求の場づくりを行った（全4回実施）。

○産業社会学部フロンティア・デザイン・センターとの連携により「企画研究「産業社会を問い直す」」を実施。ソーシャルデザインを切り口に、授業とフィールドワーク・実習を組み合わせ実施した。また、ソーシャルセクターで働いている産業社会学部卒業生をゲストにした勉強会実施にも協力した。

②外部機関・団体・研究者等との共同研究

○「若者支援・ユースワークに関わる国際的共同研究」（法政大学平塚教授を代表とする科研）に参画。オンラインでの研究会を実施。イギリスの関係者との意見交換、書籍の作成に向けた検討等を行った。

○「子ども・若者支援専門職養成研究所」（奈良教育大学生田教授を代表とする）に参画。養成にかかる各領域の内容を整理するとともに、若者領域のハンドブックを作成・発刊した。

③ヤングケアラー問題について外部関係者とのプロジェクトの事務局を担う。

子ども・若者ケアラーに関するプロジェクトチームの事務局を担い、以下の取組を実施した。

○当事者・支援者が学び合う事例検討会を2回実施。7／24「ふりかえって考えるケアと若者選択」、12／18「ケアをめぐる家族の葛藤」～きょうだいケアラーと親ケアラーの視点から～

○過去5年間の事例検討会をベースに書籍「子ども・若者ケアラーの声からはじまる」を2月に発刊。出版記念シンポジウムを2／13に実施するとともに、書籍をもとにした広報にも取り組んだ。また、シンポジウムを以って本プロジェクトは終了することとなった。

○また、立命館大学斎藤真緒教授が当事者とともに立ち上げた「子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト」にプロジェクトは移行する形となり、協会も実施に協力することとした。

○当事者のつどい「いろはのなかまたち」を定例開催。

○情報発信として、立命館大学映像学部の学生とともに、動画制作に取り組んだ（令和4年度に完成予定）また、関西学院大学学生の卒業制作として動画作成に協力した。

○その他、ヤングケアラーへの関心の高まりにより、講師派遣・視察対応・マスコミ対応・関係者とのつなぎ等、18 歳までに止まらない子ども・若者ケアラーの実情等を伝える機会を持った。

(4)戦略的な広報の取り組み（広報室の運営、講師派遣、賛助会員ほか）

①協会及びユースサービスの「ファンを増やす」ための戦略的な広報に取り組む

○広報戦略室において、広報の位置づけ整理と、短期的な広報戦略についての検討を実施した。

○HP の課題を整理するとともに、リニューアルに向けての検討を実施した。

○新たに WEB チームを設定し、若者向け広報としてオリジナルキャラクターを用い、主に Twitter での発信に力を入れた。年度末にはキャラクターのグッズを作成し、次年度に向けてセンター利用・Twitter のフォロワー促進のためのキャンペーンを企画した。また、HP のアクセス解析を行い、効果的な HP 作成に向けて各事業所に共有・説明する機会を持った。

②広報の全体調整を行う

○広報データの更新・管理、協会広報物の全体調整、広報関連の照会・回答等、全体の調整を行った。

③広報誌ユースサービスの発行（再掲：補助金事業）

④講師派遣事業

○外部機関・施設等からの依頼に応じて、企画提供や講師派遣を行った。

| 内容・テーマ | 派遣先・依頼元等 | 実施日 |
|---|---|---|
| 奏和高校 新入生プログラム | 京都奏和高校 | 2021/4/11 |
| 花園高校 スタートアップ研修会 | 花園高校 | 2021/4/13 |
| 文教大学「人間教育実践論」 | 文教大学 | 2021/5/31 |
| 滋賀県立大学「生涯学習論」 | 滋賀県立大学 | 2021/6/16 |
| 大阪教育大学「生涯教育実践研究Ⅱ」 | 大阪教育大学 | 2021/6/18 |
| ユースワーカー養成研修 | NPO法人だっぴ | 2021/7/4 |
| ユースワーカー養成講習会＠尼崎 | 尼崎市ユース交流センター | 2021/7/11・18 |
| YW協議会オンライン実践交流サロン「ユースワーカーはどう若者の権利を保障するのか？」 | ユースワーカー協議会 | 2021/8/5 |
| 茨木市支援方策検討会 相談に関する学習会「子ども若者ケアラー支援の現場から」 | NPO法人はっちぽっち | 2021/8/6 |
| TEDICスタッフ研修「ふりかえり」「記録のあり方」 | NPO法人TEDIC | 2021/8/29,9/26 |
| 神戸市ふぅのひろばキックオフ「いろはのなかまたち＠京都の場合」 | こうべユースネット | 2021/10/9 |
| 佛教大学「社会教育課題研究」「社会教育計画」 | 佛教大学 | 2021/10/28 |
| 子ども・若者総合相談窓口の紹介 | 龍谷大学 | 2021/11/2 |
| 同志社大学「社会教育実習Ⅳ」 | 同志社大学 | 2021/11/5 |
| シリーズ“WITHコロナ時代の居場所づくり” －まちのちゃぶ台ネットワーク山科における取組－ | 京都橘大学総合研究センターレジリエンス・プロジェクト | 2021/11/13 |
| 第12回 日韓学術交流研究大会 セッションⅢ | 日本社会教育学会 | 2021/11/13 |
| 豊中市市民活動情報サロン ちゃぶだい集会 Vol.31「地域特性から考える居場所づくり～京都編」 | 豊中市市民活動情報サロン | 2021/11/19 |
| 自立援助ホームカルーナコラボ「キャリアプランワークショップ」 | 京都YWCA | 2021/11/28 |
| 令和3年度尼崎市実践交流会「若者のニーズの把握と実践」 | 尼崎市立ユース交流センター | 2021/12/5 |
| 日独シンポジウム2021「子ども・若者支援における専門性の構築」－日本とドイツの「社会教育的支援」に基づいてー | 子ども・若者支援専門職養成研究所 | 2021/12/12 |
| 若者の居場所ネットワーク交流会 | 兵庫県青少年本部 | 2021/12/13 |
| 佛教大学「現代家族論」 －ヤングケアラーについて | 佛教大学 | 2021/12/21 |
| 「社会的養護Ⅱ」アフターケア事業・協会事業 | 京都光華女子大学 | 2022/1/11 |
| 京都産業大学「自己発見とキャリアデザイン」 | 京都産業大学 | 2022/1/13-14 |
| 大阪教育大学「教育協働概論Ⅱ」 | 大阪教育大学 | 2022/1/21 |
| ユースワーカー養成講習会＠ひょうご | こうべユースネット | 2022/1/23・30 |
| 伏見区子どもはぐくみ室（思春期教室：出前授業）」青少年活動センターについて | 伏見区役所はぐくみ室 | 2022/1/27<br>2022/2/25 |
| やましな子育て支援連絡会 | 京都市子ども若者はぐぐみ局 | 2022/1/28 |
| 子ども・ユース関連スタッフ研修「「ユースワーク」にこだわる ～子どもの権利理解と先進事例に学ぶスタッフの姿勢～」 | NPO法人さんま<br>（松戸市青少年プラザ） | 2022/1/30 |
| ユースワーカーフォーラム | 名古屋市青少年交流プラザ | 2022/2/11 |
| ユースワーカー養成講習会 | 名古屋市青少年交流プラザ | 2022/2/19・20 |
| 全国若者・ひきこもり協同実践交流会＠オンライン | JYCフォーラム（一般社団法人若者協同実践全国フォーラム） | 2022/2/23 |
| 若者の生きづらさとその支援方法について | 済生会奈良病院 | 2022/3/14 |

⑤アドボカシー

○社会へ広く発信することまではできていないが、アンケートやシンポジウム、利用者参加型の取組などを通して、若者の声の集約・発信に取り組んだ。

## 6. ディーセントな組織づくり　事業開発の取り組み

### (1)ディーセントな組織づくり

①ディーセントワークに係るアクションプランの具体化

GPTW「働きがいのある会社調査」を利用し、全職員対象にアンケート及び報告会を実施するとともに、所属長対象に働きがいワークショップを実施した。

②メンター制度の拡充

新規採用職員に対し、ユースワーカーとしての業務を行う上で抱える葛藤や直面する課題、迷い等を相談できる体制を整えた。また、新任チーフ・新任所属長についても相談できるよう仕組みを整えた。

③コンサルテーション・スーパーバイズの実施

大阪成蹊大学の山本智也教授に依頼し実施を継続した。本年度もリモートで15回実施した。

### (2)SDGs に沿った事業・組織運営の検討

○職員対象の SDGs についての理解を深める研修を実施。
○各事業所の事業項目について SDGsの各項目との紐づけに取り組み、該当項目について集計した。
○また、それらをもとに次年度事業に反映させた。

### (3)環境負荷の少ない団体・施設運営

○KES 認証に基づく施設運営を行うとともに、若者や地域への啓発的活動を進めた。
○環境改善目標の実現のために以下のものに取り組んだ。
＊環境意識の充実と外部発信（毎月1回以上）／センター周辺の清掃（毎月1回）／環境啓発事業の実施
＊2021 年 12 月～SDGs を意識した取り組みの実施

### (4)職員研修の組織的・計画的運営（研修室による運営）

年間研修計画の設定と、それに基づいた研修を実施した。
○新規採用職員研修の実施／対象9名
○若手（2～4年目）職員研修の実施。2グループで内外の講師に依頼／対象8名
○外部研修の希望を集約し研修の機会を提供した。
○テーマ別研修として、「ダイバーシティ研修」を実施した。
○全体研修は3会場をオンラインでつないで実施。ディーセントワークタスクによる GPTW 働きがいのあるアンケート調査の結果報告・ワールドカフェとともに、各種取組の報告機会を持った。また、併せてアルバイト研修、普通救命講習（AED研修）を実施した。
○研修室ニュースを4回発行し、研修に関連する情報について職員で共有できるよう努めた。
○実践をふりかえること、ワーカーの語りに耳を傾けることを前提とした事例研究会を7～3月に実施した。

### (5)事業の計画・評価の仕組みづくり

○事業計画・報告・評価の流れを整理し、意味を明確化するとともに、あり方を捉え直すプロセスを継続した。
○事業評価ヒアリングにおいて「協会として大切にしたいこと」を抽出し、次年度の計画立案につなげた。
○事業所間・ワーカー間の相互評価とともに外部評価者の視点も含めた実践の価値づけの機会とした。

### (6)その他のプロジェクト

○所属長会タスク
＊今後の若者ニーズの把握：ニーズ把握のためのアンケート調査を実施した ⇒ 今後の事業に活用
＊新しい YW 事業行う準備：現状の課題整理に取り組んだ
＊持続可能な組織運営：同一労働同一賃金、会議体等の課題整理に取り組んだ ⇒ 次年度も継続
○チーフ会タスク
＊働きやすい職場づくり：新採・若手職員向け個人目標シート・ふりかえりシートの作成・導入 ⇒ 導入
＊居場所機能のアップデート：「居場所の段階別機能」について見直し、整理 ⇒ 意見を整理し更新
＊協会全体でアフターケア事業を考える：課題整理と呼応した取組の提案 ⇒ 原資にあわせて実施

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者／のべ数 | 備考／実施場所等 |
|---|---|---|---|---|
| ユースワーカー養成講習会 | 11・12月 | 2 | 11名／17名 | |
| 若者にかかわるスタッフの機関合同研修<br>「新人ユースワーカーのふりかえり研修」 | 10月 | 1 | 20名 | |
| 京都市「行財政改革」に係る勉強会・意見交換会 | 7月 | 2 | 21名 | |
| cafe18 いつから大人？いつまで子ども？ | 1月 | 1 | 12名 | |
| 奏和高校・伏見工業高校内居場所事業 | 通年 | 17 | 259名 | 奏和・伏見工業高校 |
| 奏和高校Quintetto | 通年 | 10 | 244名 | 奏和高校 |

## Ⅱ. 青少年活動センター指定管理業務

### 1. 協同事業

7センターが協同し、1センターでは実現しにくい事業（規模感・費用面・運営面）に取り組んだ。

**(1)若者文化発信事業「ユスカル！」【後掲 東山センターに記載】**

**(2)青少年交流促進・多世代交流事業「ユースシンポジウム」**

○「18 歳、だから？」と題し、2022 年 4 月から民法改正により変更される「成年年齢引き下げ」をテーマとして取り上げ、実施した。

○青少年の移行期支援に詳しい宮本みち子さんをお呼びした全体会と、その後2つの分科会「だから、自分たちで成人式を考えてみた」、「だから、いろんな国の色んな人に話を聞いてみた」を実施した。

### 2. 横断的事業

7センター共通もしくは1センター単位ではない項目について、横断的に取り組んだ。

**(1)利用グループ・団体、関係団体・個人の関係づくり**

○グループ登録の運用と調整

＊青少年グループ登録＝89団体、育成登録団体＝100団体

○団体の交流・情報交換の場づくり

＊若者に関わる団体や青少年自主活動グループの交流・情報交換会を2月20日に実施した

**(2)青少年活動センターの利用・稼働率促進に関する取り組み**

○利用・稼働促進に向けた広報に取り組んだ。

○ユースアクションイベントガイドの WEB サイト稼働と紙面発行に取り組んだ【本体事業2（1）再掲】

**(3)ボランティア育成・研修会等の実施**

○ボランティア説明の実施とマッチング

＊5月16日に全青少年活動センター合同のボランティア説明会を実施した。

＊その他、随時ボランティア応募に関する個別対応を行った。

○中学生学習支援ボランティア説明会・研修会【後掲】

**(4)センターのないエリアへのセンター機能の持ち出し**

**①機関連携**

○今後の展開に向けて、センターのないエリアの区役所・支所をはじめとした機関・団体への事業紹介とともに、かかわっている若者の状況等のヒアリングを行った。

**②出張ユースワークの試行と整備**

○若者が地域へ出向き、活動の場や視野がひろがる取り組み

＊各青少年活動センターでのボランティア活動や地域を活動フィールドとした事業において実施した。

○資源の少ないエリアにおいて、居場所や活動の場づくり

＊ニュータウン（洛西・向島）エリアでの若者・地域のニーズに応えた拠点づくり事業を定例実施した。

＊向島地域で立ち上がった「藤の木セカンドハウス」の運営にかかわり、若者食堂等の取組を実施した。

○市民パートナーの開拓

＊各地域での実践にあわせて、活動に関係する地域住民との連携に取り組んだ。

○プログラム型事業の試行

＊社会的養護自立支援事業の訪問講習会において、ユースワーカーが協同でプログラムにあたった。

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者（のべ数） | 備考／実施場所等 |
|---|---|---|---|---|
| ユースシンポジウム | 3／6 | 1 | 75 | 中央・北・伏見センター |
| 団体交流会 | 2／20 | 1 | 21 | オンライン／中央センター |
| 合同ボランティア説明会 | 5／16 | 1 | 10 | 中央センター |

＊ユスカル！については、東山センター事業の中で記載

## 2. 子ども・若者総合相談窓口

昨年度、子ども・わかもの支援事業の体制変更により広報が出来なかったため、積極的に内外の機関と連携もしながら広報に取り組んだ。また、特に社会生活のし辛さを抱えた大学生が相談に繋がりやすくなるよう、大学との連携も模索した。新規相談件数は昨年度より増加。コロナ禍等により外出不安等のニーズに対応できるようオンライン相談を開始し、休館中も来所面談に替わる方法で相談を実施することができた。

### (1)子ども・若者総合相談の実施

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族、関係機関からの相談に対応し、助言や情報提供、繋ぎを行った。相談者のニーズに応じて同行や館外での出張相談も行った。

○新規相談件数は、528 件と昨年度より 119 件増加。延べ相談回数は 899 回。

○新規相談ケースの相談者別の内訳は、本人が 257 件(48.7%)、父又は母が 120 件(22.7%)、両親以外の家族が 24 件(4.5%)、その他が 5 件(0.9%)、関係機関(内部)が 69 件(13.1%)、関係機関(外部)が 53 件(10%)。昨年度よりも本人からの相談の割合は 20.3%増加した一方、父又は母からは 22%減少した。ひきこもり相談の第一次窓口の位置づけではなくなった影響が考えられる。

相談内容別では「将来・進路」が 102 件(19.3%)と最も多く、次いで「居場所・活動」が 77 件(14.6%)、「健康・障害」が 67 件(12.7%)となっており、その他、就労や家族、学校、性、コロナに関する事など、多様な相談を受けている。

年代別では、20 歳未満が 153 件(29%)、20 代が 203 件(38.4%)、30 代が 111 件(21%)、40 代が 30 件(5.7%)、不明が 31 件(5.9%)で、20 代の割合が減少し、20 歳未満が増加したものの、昨年度の傾向と大きな差はなかった。

○対象者の困難要因(1ケースに複数要因あり)では、メンタル 196 件(38.2%)、次いで家族関係 134 件(26.1%)、発達障害 104 件(20.3%)の順に多く、メンタルや発達障害の特性等で生活がし辛くなっている相談者が多い。その他、人間関係、コミュニケーションの課題も多く、家族の介護・看護の課題を抱えた相談者もいた。なお、コロナの影響は 32 件(6.2%)あった。※メンタル及び発達障害については疑いも含む。

○関係機関との連携ケース数及び実施回数は、79 ケースで 193 回実施。関係機関と適宜情報共有等を行うなど、関係機関と連携しながら相談者への相談を実施した。

○昨年度に引き続き、インテークやアセスメントの援助技術の向上を図るため神戸松蔭女子学院大学から講師を招き、スーパービジョンを実施(年 11 回。今年度は緊急の相談で例年より 1 回多く実施)。

○中央センターと協働で寄り添い型継続支援事業の実施に向けて協議した。

### (2)協会内部・外部資源との連携の強化、及び YS 協会の子ども・若者支援の広範な周知

○保険証サイズの広報カードを25，000枚作製。新規配架先の開拓及び当法人内部のコネクションを活用し、大学等教員関係に直接配布を依頼(送付先:機関 380 件、教員 23 件)。

○昨年度作製した当室開設 10 周年の冊子を窓口のチラシと併せて関係各所へ配架。

○青少年活動センターのツイッターや京都市の LINE での発信など、ソーシャルメディアを活用した広報も行った。

○大学の学生相談室等に電話での広報を行い、可能な大学には訪問し、窓口の周知を図った。大学相談室から窓口への相談や紹介が増えた。

## 3. 中学生学習支援受託事業 （京都市子ども若者はぐくみ局子ども家庭支援課）

家庭での学習環境が整いにくい中学生等を対象とした学習支援事業を全18拠点で実施。学生を中心としたボランティアが原則一対一の体制で熱心に学習サポートを行った。夏休み学習会は13日間の予定に対し多くの参加希望があった。緊急事態宣言のため開催できなかった4日間については冬休み学習会として希望者に案内し実施した。

2年目のコロナ禍、昨年度と同様に参加を躊躇する家庭や、小中学生に感染者が増えたことで学級閉鎖等による欠席が見受けられた。オンラインツールは主たるツールにはならないものの、感染不安やひきこもり状態の中学生の利用があったり、緊急事態宣言下のボランティアとの交流に活用されたりと、各拠点の状況に応じて運用した。また登録ボランティアに向けた研修をオンラインでも参加できるようにしたことで新たな参加があった。

新規のボランティア希望者向けには継続的に説明会の機会を設け、全拠点で活動するボランティアには研修を設定し、安定運営に努めている。

有償インターンを継続導入し、3名受け入れ。担い手育成に力を入れた。ボランティアスタッフを経験したインターン生による提案で、各拠点を取材した『イゴコチ通信』を5回発行した。

### (1)実施回数＝延べ748回

○学習会登録状況　288名（小:11名，中:157名，高:111名，他:9名）
　延べ参加者数2，875名　※重複登録14名含む　※前年度登録実数301名，

○ボランティア登録者数　　268名　延べ参加者数　4，030名
　※前年度登録267名　延べ参加者数3，319名

| | 登録実数 | 延べ参加者数 | 夏休み学習会(延べ) | 冬休み学習会(延べ) |
|---|---|---|---|---|
| 学習者 | 288 | 2，875 | 72 | 14 |
| ボランティア | 268 | 4，030 | 66 | 4 |

### (2)ボランティア説明会

5～3月、毎月第3日曜日定例開催（定例11回）、夏休み学習会ボランティア説明会3回、その他個別対応を随時実施。年間を通して全体で100名以上の応募・問い合わせに対応した。

### (3)ボランティア研修・交流会

全拠点の学習会ボランティアを対象に、研修と交流会をセットで年3回、コーディネーターや職員も参加する形で実施した。

○「中学生と関わるときに知っておきたい京都市の受験制度のこと・新しい取り組みのこと」
　・1部：京都府・市の高校受験制度の理解
　・2部：中学生等の背景理解とかかわり

○「オンライン学習支援」
　・オンライン学習支援マニュアルを知ろう
　・オンラインでアイスブレイクと交流を楽しもう

○「今年度のふりかえり＆共通の困りごと相談、来年度への作戦会議」
　・1年間のふりかえり年表づくり、トークテーマごとの意見交換

### (4)コーディネーター・担当者会

各拠点の担当職員及びコーディネーターの合同会議を実施（年1回）。また個別に拠点運営担当者と事務局での共有を行った。

### (5)自主ゼミ

ボランティア・コーディネーター・職員を対象に、現場で出会う疑問や発見をもとに意見を交わす場として実施。毎月第3日曜日に計10回開催。活動する「個人」にフォーカスし、活動歴・活動への想いなどの報告をもとに普段の学習会後のふりかえりだけでは消化しきれない話題について、毎回活発な議論が行われた。

テーマ＝「昨年度インターン生からの活動報告」、「月刊誌『教育』への寄稿文について」
　　「活動の目的と成果～学習会以外の活動も含めて」「ボランティアからインターン生になって」など

(6)夏休み学習会・冬休み学習会

○通常の学習会とは別に市内3ヵ所の拠点で夏休み学習会を9日間実施した。

○当初追加2拠点・4日間で実施予定であったが、緊急事態宣言発出のため中止とした。

○本事業の対象である中学生たちに対し、学校のない夏休みに家庭以外の居場所や夏休みの宿題・受験勉強のための学習環境を提供することを目的に開催し、長期休暇中の学習ニーズ、居場所ニーズに応えることができた。

○定例の学習会で活動をしているボランティアスタッフの協力により、円滑な運営を行うことができた。

○中止となった2拠点に応募のあった方に対して冬休み学習会として同様の主旨に沿った場を試み開催した。

○冬休み学習会はボランティアの参加が少なく個人で勉強する時間が多くなったが、交流時間を持つことで緊張が和ぐなど、通常の学習会の機能を臨時で設けられた。長期休暇中の学習機会と居場所として実施した。

＊夏休み学習会:8月3日(火)～13日(金)うち9日間

＊冬休み学習会:12月19日(日)・26日(日)

(7)週2回目拠点の運営

コロナ禍における会場定員の密対策や、受験に向けたニーズへの応答として、4拠点(南・西京・伏見・左京)にて週2回目の学習会を開催した。

(8)コーディネーター担当者会

これまでの実績や取り組みについて、当事者・ボランティア募集・市民認知の向上ための発信として下記に取り組んだ。

○対象世帯向けのパンフレット作成、児童扶養手当現況届の案内に同封

○ボランティア募集向けパンフレットの作成

○実施概要・対象者向け・ボランティア向けホームページの整備

○その他:他都市からの視察受け入れ、月刊誌『教育』への寄稿等

## 4. 社会的養護自立支援事業に係る生活相談等支援事業の取り組み

児童養護施設等、社会的養護のもとで暮らしてきた若者たちの退所後・措置解除後の生活を支えるため、ユースサービスの強みを生かした事業に取り組んだ。

### (1)研修の実施に関すること

○自立支援コーディネーター及び社会的養育にかかわる職員対象

・第1回　6月25日(金)　33　名

①紹介:新規コーディネーター、自立援助ホーム「マイルストーン」様

②概説:京都市の社会的養護の現状について

③実践共有:事例共有とグループでの意見交換

・第2回　12月10日(金)20　名

①神奈川モデル「あすなろサポートステーション」の実践例

②テーマ別意見交換:インケアからアフターケアへの接続

③情報共有・事務連絡・第1回　7月20日(月)　36名

### (2)相談支援

○対象者からの相談:140件　290回　※退所者・措置解除後であることがわかった件数のみ計上した。

内容:人間関係、進学・学校生活、就労・転職、国籍、お金、家出、居住、恋愛・結婚、妊娠、親子・家族関係、虐待、心身の健康、生き方、自主活動、余暇の過ごし方、居場所、児童相談所や救急搬送等の同行、18歳成年、感染症など。

コロナ禍の特筆として、感染不安や隔離中のサポート、緊急給付金申請、フードバンクを活用した食糧支援、衛生用品・衣料品等寄付による郵送の支援等があった。

○入所中・関係機関からの相談

内容:他都市からの転入、居場所、就労、生き方、職場適応、余暇の過ごし方、奨学金・生活費、障害、余暇などの相談がありオンラインでの面談やカンファレンスに参加等連携しながら応じた。

○コロナ禍における民間助成金「若者おうえん基金『新型コロナ緊急助成2021』」に採択され、緊急対応等の同行支援や必要物品等の経費について助成金から賄いながら相談に応じた。

### (3)交流会の運営及び実施

○参加者同士がともに食事をしながら仲間と語らい、安心して過ごせる場の運営を行った。

事業名:いこいーな

日　程:毎月第3土曜日18時～20時　合計9回　※コロナ禍により4・5・2月休止

場　所:京都市南青少年活動センター

内　容:新型コロナウイルスの感染拡大により、青少年活動センターが休館となった春の緊急事態宣言中は活動を休止し、解除後も調理等は行わず、開催時間の縮小やオンライン参加を可能とする等の感染対策を行いながら開催した。活動休止中は、スタッフより定期的に参加メンバーへの電話連絡を行い継続的な支援が行えるように努めた。

参加者:延べ48名(登録者数8名)

備考:交流事業における食糧支援について「若者おうえん基金『新型コロナ緊急助成2021』助成」を活用した。

### (4)入所児童向け講習会の実施

①訪問講習会

テーマ:「お金」「はたらく」「性」「メイクとマナー」「他」より、施設からの希望選択制

対　象:入所中の若者

内　容:チェックイン(カードトーク)、テーマに合わせたワークと対話

・8／　3　和敬学園【メイクとマナー】参加5名、職員3名、講師2名

・8／18　野菊荘【性教育】 参加16名、職員4名、講師1名

・9／25　自立援助ホームカルーナ【メイクとマナー】 参加5名、職員1名、講師3名

・11／26　積慶園【メイクとマナー】参加11名、職員3名、講師3名

②里親世帯対象「自立の準備をはじめよう～自立支援・奨学金制度説明会～」
日　程：9月18日（土）13：15～15：50
場　所：京都市南青少年活動センター
内　容：自立支援の制度説明、進路選択についてモデルケース紹介、奨学金制度の説明、個別相談会
参加者：10名（里親・里子）、27名（里親専門相談員・自立支援コーディネーターほか）

**（5）関係機関との連絡調整**

①事業運営にあたり必要な関係機関との調整、関係づくり
・児童養護施設長会（挨拶・報告）
・アフターケア「メヌエット」（情報共有）
・全国ネットワーク「えんじゅ」への団体参加（情報交換・研修参加・個別支援・政策提言等）
・京都市児童相談所
・京都府ユースアシスト
・京都府家庭支援総合センター
・子どもセンター　ののさん（支援連携）
・京都府地域生活定着支援センター　ふぃっと（支援連携）
・公益財団法人　京都YWCA（情報交換等）
・一般社団法人　京都わかくさねっと（支援連携）
・空き家バンク京都　株式会社（支援連携）
・特定非営利活動法人　セカンドハーベスト京都（支援連携）
・一般社団法人　コンパスナビ（支援連携）
・滋賀県地域養護推進協議会（支援連携・情報交換）
・特定非営利活動法人　ブリッジフォースマイル（支援連携）
・アフターケア相談所ゆずりは（支援連携）

②協会を活かした内部連携
・学習支援事業：施設入所者・退所者・里子等の継続参加、進学相談、問い合わせあり。
・青少年活動センター事業への参加や施設利用、夜のユースセンターへの参加があった。
・相談ケースについて、子ども・若者総合相談窓口や京都若者サポートステーションへ相談。
・支援ケースについて、内部共有や役割分担をしながら応対した。

## Ⅱ－1　中央青少年活動センター

全体の動向

中央としての機能、本体事業、協同・横断的事業との連携、その整理に注力したが、埒外の事柄も多く、先ずは青少年活動センターとしての中央の整理（施設管理、ロビーワーク他、他青少年活動センターが持つ機能・事業）を実施。下半期からは若者と出逢い直すことを目標に事業展開、今後の基盤、その第一歩を整えた一年であった。

### 1. 社会参加を促進する

①社会参加促進

○成年年齢引き下げに向けた取り組みとして、「18歳成年」をテーマにユースシンポジウム2022を開催した。

### 2. 居場所づくりを支援する

①交流プログラム（CONTACT）

○青少年の興味関心に沿った参加型の掲示プログラム、「ロビー掲示」を行った。

○ミニ企画など、気軽に交流できるプログラムを実施した。
「ハロウィン」、「18 歳成年」

○月 2 回、月曜日の日中に、コミュニケーションに苦手意識をもつ若者を対象としたプログラム「街中コミュニティ」を実施した。

○ウィングス京都と連携して、「パープルリボン（女性への暴力の根絶）」をテーマに掲示を行った。

○地域若者サポーターが中心となって運営する「赤レンガ Cafe」について、コロナ禍での開催不可を受けて、継続を協議。今年度をもって終了となった。

### 3. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①自主活動応援事業「CHEER」

○イベント開催やプログラム実施など、青少年グループや個人のやりたい思いを、若者とともに具現化した。
「劇団CANVAS」、「お客様がいらっしゃいました.」、「高校生30日間チャレンジ」、「マイペース 不登校経験者による座談会」

②インターンや社会教育実習等の受け入れ

○京都橘大学からインターンシップを 1 名受け入れた。体制から、中央青少年活動センターとしての受け入れは最小限とした。

### 4. 地域交流・連携・参画に取り組む

①中央センター周辺地域の団体・機関との連携事業

○中京区、及び担当区域である右京区について、関係会議に参加した。
「中京区はぐくみネットワーク」、「右京区はぐくみネットワーク」、「日彰学区安心安全環境パトロール」、「中京区要保護児童対策地域協議会（書面開催）」

②育成委員会の開催

○コロナ禍につき、関係者と協議の上、本年度も実施を見合わせた。

### 5. 相談・支援に取り組む

①相談事業

○ロビーでの関わりは増加しているが、相談に至る関係性は築けておらず、ロビーでの相談数としては減少している。

②就労支援事業

○今年度、実施なし。

③中学生学習支援事業「かけはし」

○学生サークル Apolon とともに学習会を実施した。昨年度に続き、大学の活動自粛要請もあり、対面、及びオンラインで行った。

## 6. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①利用促進事業「自習室」

○空き施設を利用して自習室を設置。ロビーでの自習利用も多く見られ、自習ニーズは高い。自習から活動につながることは少なく、仕掛けが必要である。

②トレーニングジム運営（トレーニングジムガイダンス）

○前年度に引き続き、感染症対策を万全にした上で運営した。

③広報活動

○コロナ禍につき、旧来行っていた学校訪問、チラシ配布などを取りやめ、代わって SNS に注力した。

## 7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

①ユースアシスト（京都府との連携事業）

○京都府青少年課が実施している「少年の立ち直り支援事業」（ユースアシスト）に協力。学習支援や面談のための場所提供を行った。

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者（のべ数） | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 交流プログラム CONTACT | 通年 | 10 | （484） | |
| 街中コミュニティ | 通年（第2第4月曜日） | 14 | （25） | |
| 活動応援事業CHEER | 4・6・7・8・10・11・12・1月 | 35 | （98） | |
| 中学生学習会「かけはし」 | 通年 | 44 | 16（202）<br>Vo.14（414） | |
| 自習室（中央） | 通年 | 306 | （957） | |
| ジムガイダンス | 通年<br>（第1日曜，第4土曜） | 18 | （145）<br>Vo.5（18） | |
| ユースアシスト | 通年 | 60 | （291） | |

## Ⅱ－2 北青少年活動センター

全体の動向

年間利用者数は 36,297 名、昨年度比 863 名の増加。特に、活動できる場を求めて青少年G・Aが 3,514 名、育成団体が 886 名増加し、施設利用者数は＋1,944 名となった。一方で、事業実施を見合わせた等もあり事業参加者数は－1,081 名、感染症対策に慎重になり事業を積極的に行えたとは言い難い。その分、ワーカーそれぞれが若者との個々の関わりを意識したことで、相談件数＋97 件に繋がった。

### 1. 自然体験・環境学習事業（センター固有テーマ事業）

①若者農業体験隊 米 come CLUB

○米作りの醍醐味である田植えと稲刈りが、緊急事態宣言の影響で実施できなかった（昨年度同様、ワーカーが行った）。また、自然を相手にすること（天候・米の成長具合等）もあり、事業実施日の確定が直前になることも多く、充分に広報が出来ず参加者獲得に苦戦した。

### 2. 居場所づくりを支援する

①20代の居場所づくり「ごぶさた」

○コミュニケーションに苦手意識がある20代の青少年を対象に、安心して他者と過ごすことができるプログラムを企画実施。今年度は大学生年代からの問い合わせが多かったが、現事業参加者に同年代がいないことから、新規登録に至らなかった。今の居場所に対する課題と、大学生年代の居場所を考える機会となった。

②ロビープログラム

○月1回程度「きたせいカフェ」・自習室利用者限定「テスト勉強応援メシ」、また季節などテーマを基にしたロビープログラムを実施。緊急事態宣言発令時期には、若者が興味を抱きそうなオンラインプログラムを定期的に実施し、他センターとの連携も試みた。インターンシップ・実習生が企画・実施する場となった。

### 3. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①自主活動支援事業

○利用の若者が、活動での悩みややりたいこと等を気軽にユースワーカーに伝えられるように、自由に記入できるボードを作成した。グループ活動相談5件。

②ボランティア体験・インターンシップなどの受け入れ

○緊急事態宣言下はインターン・実習をオンラインに切り替えるなどして対応した。実習中の関わり（対面時）について「事例検討会」をオンライン実施。記録を書き省察するユースワーカーの定期的な取組みを知ってもらう機会になり、またインターン生も検討会での他者からの感想や Feedback を受け自信に繋がっていた。

### 4. 地域交流・連携・参加に取り組む

①気軽に休日ボランティア

○地域の環境団体（日本環境保護国際交流会）と清掃活動を毎月1回実施した。感染症の影響で活動する機　会が少なくなっていた中、「とりあえず何かしたい」という参加者の声が顕著だった。地域のイベントは相次いで中止となり、地域でのボランティア活動は3月の「ふなおか桜パンまつり」のみ。Funaoka Standard（オンライン開催）は、ボランティア活動は無かったが、利用者が発表をする場になった。

②サンタクロース・プロジェクト

○緊急事態宣言発令の影響で広報期間が充分に取れず、例年の家庭訪問ではなく、センターに子どもたちを招くクリスマス会を実施。ボランティア希望は例年以上の14名登録となったが、クリスマス会に来館したいご家庭の需要は少なく、これまで程度の参加者数を集めることが難しかった。放課後等デイサービスから「子どもたちにサンタさんからプレゼントを渡して欲しい」という声を受け実施した。

③北コミまつり（センター利用団体、地域団体との協力事業）

○今年度も例年の「まつり」開催は見合わせ、障がい理解のシンポジウムを2月20日（日）に予定していたが、その時期にまん延防止重点措置が発令され次年度に延期した。代わりに「障がい理解を考えるパネル展示」を実施。また、若者の活動発表の場「なんでも文化祭」も中止し、若者たちの活動している様子を発信する「なんでも動画祭」を実施。12団体の日頃の活動動画をロビーで上映した。

④北区つながるワークショップ（北区役所との連携事業）

○実施なし。

⑤北区学生×地域応援団（北区社会福祉協議会、大学ボランティアセンターと連携）

○北区内の4大学（京産大、立命館大、佛教大、大谷大）と北区社協、北区・上京区まちづくりアドバイザー、北青少年活動センターの組織間の関係性づくりを行うため、定期的に情報交換会を実施した。

⑥関係機関との連携・協力（運営協力会や、北・上京区役所等行政機関、高校・大学等教育機関ほか）

○運営協力会を1月13日に開催。地域の会議は、対面や書面などその時々の情勢に依って実施。

## 5. 相談・支援に取り組む

①相談・情報提供事業に取り組む

○随時、相談記録を書くことを徹底することで、相談件数が昨年度より 97 件増加となった。しかしながら、相談内容を丁寧にチームで共有、検討する時間を充分に確保することはできなかった。

②中学生学習会（学習支援事業）北・上京中学生学習会　※再掲

○ケースワーカー経由の参加者は昨年度同様になかった。ボランティアに関しては、昨年度同様多くの希望者があり新規登録に繋がった。生活福祉課と子どもはぐくみ室との報告会では、双方が繋がっている参加者が少なかったが、困った時に組織として頼れる関係性であるため、こまめに情報共有に取り組んだ。

③就労支援事業「チャレンジ・インターン」（京都若者サポートステーションとの連携事業）

○希望者がおらず実施なし。

## 6. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①自習室

○コロナ禍2年目。昨年度は、休館していた近隣の自習室が開館しはじめたことに影響され利用者数が大きく下がったが、今年度は、近隣中高へのチラシ配布の時期が功を奏して登録者数が大きく伸びる結果となった。

②広報充実事業

○事業チラシ等、近隣中高の全校生徒配布を実施。コロナ感染拡大が落ち着いた秋頃の広報が、自習室と卓球フリータイムの新規利用増加に繋がった。大学での広報はオンライン説明を希望されることがあった。

③卓球フリータイム

○今年度は近隣中高のほか、大学へもチラシを配布。その効果もあり、大学生年代の新規利用者が増えた。

## 7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

①ユースアシスト（京都府との連携事業）

○ユースアシストに協力し、家庭裁判所に係属中の方々を参加対象に、月1回の地域清掃活動を行った。

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者（のべ数） | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 若者農業体験隊「米come　CLUB」 | 6・7・10月 | 3 | （16） | 大原 |
| 気軽に休日ボランティア | | | | |
| 清掃活動 | 通年（第1土曜日） | 7 | （74） | 紫明通り |
| 　地域のお祭り | 随時 | 2 | 236／Vo.6 | |
| 20代の居場所づくり「ごぶさた」 | 通弁（月3回） | 12 | 10（95）<br>Vo.6(32) | 北区周辺 |
| サンタクロースプロジェクト | | | | |
| 　ミーティング・準備作業・ふりかえりなど | 11月～12月 | 17 | Vo.14（129） | |
| 　プログラム当日 | 12月25日 | 1 | 14／Vo.13 | |
| 卓球フリータイム | 通年（月2～3回） | 20 | 207 | |
| 自習室 | 通年（ほぼ毎日） | 323 | 5915 | |
| ロビープログラム | 通年（月に1～2回） | 50 | 767 | |
| 北コミまつり：シンポジウム | | | | |
| 　実行委員会 | 11月～2月 | 4 | 8（32） | |
| 　パネル展示アンケート | 3月15日～31日 | 1 | 12 | |
| インタビュー | 2月20日 | 1 | Vo.3 | |
| 北コミまつり：なんでも動画祭 | 2月 | 1 | 78 | |
| 北中学生学習会 | 通年（毎週木曜日） | 40 | 7（98）<br>Vo.15（82） | |
| 上京中学生学習会 | 通年（毎週月曜日） | 38 | 8（86）<br>Vo.8（134） | 上京区役所 |

## Ⅱ－3 東山青少年活動センター

全体の動向

コロナ禍が続く中、オンライン等の手法や工夫を取り入れ、全ての事業を実施したことで、休館時も事業を滞らせることなく、青少年に創造表現の機会を提供することができた。また、情報誌や施設パンフレット、事業報告冊子等の広報物作成、左京区へのアウトリーチも行い、多方面への活動発信に力を入れたことで、認知が広がり、新たな連携先の構築から、次年度に向けた事業展開につながった。

### 1. 創造表現活動事業（センター固有テーマ事業）

(1)創造表現事業

①演劇ビギナーズユニット

○新型コロナウイルス感染対策を徹底し、休館中はオンラインに切り替える等、臨機応変な運営を行った。集団創作を通して、価値観の幅を広げ、自己表現すること、コミュニケーションスキルの必要性と挑戦する機会を提供した。また、これらの体験から、青少年の孤立を未然に防ぐことにつなげた。

②ダンススタディーズ1

○集団創作を通して、少人数や全員での構成による創作にも取り組み、自己と向き合い、コロナ禍で希薄になっていた人と関わる力を高め、様々な合意形成の体験の機会を提供した。

(2)障がいのある若者の表現事業

①東山アートスペース

○昨年度に引き続き、2クールでの実施を予定したが、緊急事態宣言に伴う休館の影響により、第2クールの実施は見送った。代替プログラムとして単発プログラムを実施し、活動の場を提供した。

②からだではなそう～表現活動へのお誘い～

○休館中は、試行的にオンラインで実施し、対面プログラムの代替案として提供できた。後期は、感染防止対策を施した上で、対面実施し、参加者やボランティア双方が他者との関係性の築き方やコミュニケーションをとる楽しさを体験できる機会を提供できた。

(3)若者文化発信事業

①ステージサポートプラン

○新型コロナウイルスの影響を大きく受け、9企画が中止となった。また、コロナ禍で長い間できずにいた有観客公演に目が向けられ始め、そこから様々な学習の機会や、経験・知識を継承（伝承）する機会の喪失がグループの大きな課題であることが明確になり、サポートも含む場や機会の提供へのニーズの高さを感じた。

②ロームシアター京都との連携事業「未来のわたし－劇場の仕事－」

○創造活動の現場のプロフェッショナルであるロームシアター京都で、自主事業業務の体験機会を提供した。

③センター協同事業（若者文化発信事務局事業）「ユスカル！」

○今年度は若者文化の創造プロセスに着目し、主に動画作成・YouTubeでの配信と、写真展（写真や動画の展示と参加型展示、創作体験ワークショップ）をロームシアター京都にて開催した。動画や写真撮影を若者が担うことで、より若者の感性が生きる創作の体験を提供した。また、新たな若者文化を発掘するため、ユースワーカーが市内に出て、若者へ直接的な声かけなどを行い、出演者を募った。

### 2. 居場所づくりを支援事業

①居場所づくり事業「EP（エピ）」

○創作活動を通して、交流しながら過ごすことが出来る場として、月1回の創作活動を実施した。休館中はオンラインで対応した。個人創作から、他者との創作活動につなげ、最後はグループ展を開催した。

### 3. 担い手育成に関わる事業

(1)自主活動支援事業

①自主活動支援事業

○演劇・ダンス・漫才の公演と、映像撮影の自主企画の開催をサポートし、場所や形式を変えて新たな表現へのチャレンジや、コロナ禍でなかなか取り組めなかったことが実現できる機会を提供した。

②創作活動支援事業

○展示会や個展、自主ライブやコンクールなどを控えている青少年グループに対して、企画実現に向けた施設提供から個別相談につながった。

(2)担い手育成事業

①インターンシップ受け入れ

○京都女子大学の社会教育実習生1名受け入れ、実習終了後、ボランティア登録へつながった。

②センター事業における各ボランティアの育成と支援

○知識や技術の共有を行う機会として、ボランティア研修を実施。また、講習会の運営をボランティアが担った。

## 4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①学校連携事業

○京都市中学校演劇連盟、高校演劇連盟中部支部の合同公演に青少年ボランティアが参画し、テクニカル講習の実施やリハーサル・公演のサポートを行った。

②地域交流事業

○東山区の連携団体等の主催事業は中止。新たに左京区へのアウトリーチを行い、連携を図ることができた。

③運営協力会の運営と連携

○総会を書面開催にて実施。運営協力会委員と事業協力・相談等での連携を図ることができた。

## 5. 相談・支援の取組

①相談・情報提供事業

○事業参加者・ボランティア・ロビー利用者との関わりから、個別相談につながった。また、関係機関等からの相談にも対応した。

②中学生学習支援事業「東山中学生学習会の運営」【再掲】

○学習支援を通した進学のサポートや安心して過ごすことのできる居場所機能を青少年ボランティアと共に提供できた。

③就労支援事業「じぶんみがきダンス」（京都若者サポートステーションとの共催事業）

○ダンス小作品を参加者みんなで創作していく中で、自己と向き合う力を高め、自己表現力やコミュニケーション力を培うなど、就労意識を高めるきっかけを提供した。

## 6. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①情報発信および広報活動の充実

○ホームページやブログの定期的な更新、SNS の活用により、新たな事業参加者の獲得につながった。また、創造工作室リーフレット、情報誌、事業報告冊子と幅広く広報物を作成し、場面に応じた活用ができた。

②利用促進事業

○自習室は、近隣の学校へのチラシ配布の効果と、インターネットの検索から新規利用につながっていた。また、演劇とものづくりのワークショップを開催し、初めて利用する方、新たな分野の活動に興味を持った方からの参加が得られ、利用促進につなげた。

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者（のべ数） | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 演劇ビギナーズユニット | 7月～11月 | 60 | 17（2，108） | 自主練習・公演入場者含む |
| ダンススタディーズ1 | 12月～3月 | 40 | 8（436） | 自主練習・公演入場者含む |
| 東山アートスペース | 8月～3月 | 7 | 21（90） | ボランティア数含む |
| からだではなそう | 7月～2月 | 9 | 13（86） | ボランティア数含む |
| ステージサポートプラン | 通年 | 78 | 5，120 | ボランティア数含む |
| ステージサポートプランYU’Z | 通年 | 108 | 296 | |
| 未来のわたし | 年1回（7・8月） | 7 | 17（88） | |
| ユスカル！ | | | | |
| 　写真展来場者数 | 3月15日～22日 | 8 | 4，131 | 準備・片付けスタッフ含む |
| 　参加型展示 | 2～3月 | | 472 | |
| 　ワークショップ参加者数 | 3月18日～21日 | 4 | 14 | |
| 　動画視聴回数 | 3月16日～3月31日 | 16 | 13，728 | |
| 居場所づくり事業「EP（エピ）」 | 7月～3月 | 9 | 5（48） | |
| ロビーギャラリー | 通年 | 240 | 7，098 | 同時期複数開催含む |
| 学校連携事業 | 通年 | 24 | 1，980 | |
| 自主活動支援事業 | 通年 | 4 | 167 | 来場者含む |
| 創作活動支援事業 | 通年 | 17 | 19 | |
| 自習室 | 通年 | 308 | 365 | |
| 利用促進事業 | 5月～11月 | 8 | 31 | |
| 焼成窯一般開放 | 通年（月1回） | 12 | 110 | |
| じぶんみがきダンス | 年2回（11月，1・2月） | 10 | 34（72） | |
| 中学生学習支援 | 通年（週1回） | 50 | 546 | ボランティア数含む |
| 演劇ビギナーズユニット | 7月～11月 | 60 | 17（2，108） | 自主練習・公演入場者含む |
| ダンススタディーズ1 | 12月～3月 | 40 | 8（436） | 自主練習・公演入場者含む |
| 東山アートスペース | 8月～3月 | 7 | 21（90） | ボランティア数含む |
| からだではなそう | 7月～2月 | 9 | 13（86） | ボランティア数含む |

## Ⅱ－4　山科青少年活動センター

全体の動向

地域とともに青少年の育ちや活動を支えるため、食・居場所をテーマとした事業を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症対策として、規模縮小・中止としたり食以外のプログラムを考えたりしてすすめた。地域でのイベントがほぼ中止となったため、地域活動や個別でも楽しむことができる余暇活動やオンラインプログラムに取り組んだ。

### 1. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①地域通貨「べる」（自主事業）

○主に10代の青少年がちょっとしたお手伝いで獲得することができ、山科センターのカフェ事業を含む地域のお店でつかえる活動を実施した。今年度は、20代の青少年のべる活動を試行した。

○地域でのイベントが中止になったため、外部イベントの機会として協力店舗での活動を行う「とびだせ！べる活」を実施した。

②やませいフェスタ（「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」への参画）

○「ぐるっとふれ愛まちフェスタin山科」が中止となったため、かわりに「やませいミニフェスタ」としてオンラインで実施した。ロビーとの連動企画やYoutuberによるゲストトーク、地域の方との交流などを入れこんだ。

③運営協力会との協働事業

○総会については、コロナ禍を配慮して6月に書面決議を実施した。

○青少年との懇談会も実施しなかったが、下半期に会員に上半期事業実施報告を送付した。

④地域協働・ネットワーク事業

○青少年・子どもに向けて取組む団体等の活動助言やサポートの他、夜間パトロールやはぐくみネットワーク会議などへの参加を通して、青少年支援に対する理解や認知を広め、地域で青少年を育む基盤づくりに努めた。

○「食」をテーマとした地域での居場所づくりネットワーク「まちのちゃぶ台ネットワーク山科」の事務局を担った。青少年・子ども支援に関わる人同士が出会い繋がるための「場」づくりとして「大人カフェ」を計2回実施した。

### 2. 居場所づくり支援事業

①ロビーワーク

○ワーカーが、青少年と日常の関わりから関係づくりをすすめ、情報提供や相談に繋げた。

○ロビー掲示では、青少年が選挙に関心を持つ機会として、衆議院議員選挙に合わせた掲示や企画を行った。

②余暇充実事業（青少年の自主企画含む）

○毎週土曜日に、気軽に参加できるイベント（スポーツ、文化、アート体験など）を実施。アンケートをもとに、青少年のニーズを反映させたプログラムも行った。また、単発のダンス教室も開催した。

○バレンタインの時期に複数のグループで料理室を利用できる「バレンタインウィーク」を実施した。

○休日や平日の放課後に、青少年がスポーツルームを予約なしで利用できる「フリータイム」を設けた。

○日祝日及び長期学休期間中、中高生のみがスポーツルームを利用できる「中高生タイム」を設けた。

③やませいカフェ

○毎週火曜日の放課後、青少年ボランティアと軽食（100 円・べる）の調理・提供をすすめた。

○市内感染状況を見ながら、オンラインでの開催・中止の判断をその都度行った。再開した際には、青少年から「待っていた」「やっと開いた」と再会を待ち望む声が聞かれた。

④自習室＆自習室カフェ

○空き部屋を確保し、自習室として開放。利用の際に声かけを行った。

○利用ポイントカードをつくり、ほっと一息つける「自習室カフェ」を実施。事業参加や情報提供・相談に繋がった。随時実施したが、木・日曜に部屋を確保することで、利用者同士の繋がりをつくることができた（11 月～）。

### 3. 自主活動を支援する・担い手育成に関わる事業

①やましな未来プロジェクト

○自治連合会会長の協力のもと、地域の川清掃や山科地域を歩く歴史ウォークなど、地域と関わる活動の機会を設けた。

○京都橘大学生（文学部キャリアゼミボランティアコース）を受け入れ、地域体験活動を進めた。

②フードパントリー（やませい食堂）

○新型コロナウイルス感染症対策により「やませい食堂」が実施できなかったため、青少年ボランティアと協議して「フードパントリー」を実施した（7月～）。

③ボランティア活動促進

○「やませいミニフェスタ」内で実施した。「山科地域でのボランティア活動」をテーマに、センターや「子ども食堂」の活動を紹介し、ボランティア活動へのきっかけをつくった。

## 4. 相談・支援の取組

①情報提供・相談

○情報提供や相談などの個別対応・サポートを行った。状況に応じて、はぐくみ室や児童相談所、児童館等とも協力・連携・情報共有をすすめた。

②山科中学生学習会（中学生学習支援受託事業）【再掲】

○対象となる中高生を受け入れ、高校進学のサポートや日々の学習支援を青少年ボランティアと進めた。

○新人ケースワーカー研修は、コロナウイルス感染症対策のため実施しなかった。

③サポステ連携事業「働くまえのコミュニケーションワーク」

○京都若者サポートステーションの登録者等を対象に、ストレッチや発声練習、インプロビゼーション（即興演劇）の手法を用いて、気づきを得るワークを実施した。最終日はオンラインで実施した。

## 5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①利用促進・広報事業

○中学校長会山科支部に依頼し、山科区内の新中学1年生にセンターの広報物（リーフレット・ニュースレター等）を全員配布した。やませいだよりは定期的に発行（計4回）し、各教室への定期的な掲示を依頼した。

○Twitter、ブログやホームページ、Facebook、LINE＠等を定期的に更新。特にボランティア募集サイト「Activo」の活用がボランティアや参加者増に繋がった。

## 6. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

①京都府青少年課との連携事業　ユース・アシスト（青少年の立ち直り支援事業）

○定期的な学習支援や面談のための場所提供（会議室・ロビー）を行うが、今年度は見学のみだった。

②青少年の非行問題(大麻など)に関する啓発

○ロビーで青少年が気軽に相談できる場をつくった（協力：一般社団法人　京都わかくさねっと）

## 7. 環境負荷の少ない施設・事業運営と啓発

①環境負荷の少ない施設・事業運営と啓発

○ごみの分別や環境に関する話題について、掲示物や SNS 等で利用者に発信した。

○「やましな未来プロジェクト」事業他で青少年と地域の清掃活動を行った。

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者（のべ数） | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 地域通貨べる | 通年 | 108 | 48（80） | 山科センター・周辺 |
| やませいミニフェスタ | 3／13 | 1 | （46） | オンライン |
| 運営協力会との協働事業 | - | 1 | - | 書面開催 |
| まちのちゃぶ台ネットワーク（大人カフェ含む） | 7／31、8／28、9／25 2／19、3／13 | 5 | 74（88） | |
| ロビーワーク | 通年 | ― | （223） | |
| Yico | 通年 | ― | （285） | |
| フリータイム | 平日、17時～18時 | ― | （847） | |
| 中高生タイム | 日祝・長期休暇中 | ― | （243） | |
| やませいカフェ | 4月～1月 | 29 | （281） | 6～9月：オンライン |
| 自習室＆自習室カフェ | 通年 | ― | （2，681） | |
| やましな未来プロジェクト | 5／30、11／7、12／5 12／18 | 4 | （47） | 安祥寺川他 |
| フードパントリー | 7月～3月 | 8 | （286） | |
| ボランティア活動促進 | 通年 | - | （58） | |
| 情報提供・相談 | 通年 | - | 112（300） | |
| 山科中学生学習支援 | 通年 | - | 28（318） | |
| はたらく前のコミュニケーションワーク | 8／9、12、17、21 | 4 | 11（40） | |

## Ⅱ－5　下京青少年活動センター

全体の動向

コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、利用者数は58，388名（前年度比＋10，609名）となった。「1Dayボランティア」へは多くの若者が集まり、同世代との交流や活動の機会へのニーズの高さが伺えた。また、「プラン・ドゥ」においては、グループ運営やワークショップの企画・実施、企画展の開催など多くの自主活動を支援し、青少年のチャレンジを応援することができた。

### 1．スポーツ・レクリエーション事業（テーマに基づく事業）

①まちログイニング

○スマホやSNSを活用した街歩きイベント（フォトログイニング）を実施し、レクリエーション活動での楽しさや青少年の交流を図る機会づくりを行った。

○企画・運営を青少年ボランティアが担うことで、若者目線で面白さを深め、街の魅力を伝えることができた。

②☆レクリエーション集団「よきDELI」

○子ども向けのワークショップや、梅小路公園でのイベントなどを通して、他者との交流や身体を動かし楽しむ機会を提供できた。

○青少年ボランティアが主体的に活動し、チャレンジすることができた。

③ロビー交流企画

○「何でも質問 BOX」や「ロビーアンケート」を通して、間接的に交流する、他者の価値観に触れる機会を作った。

○手軽に参加できる軽スポーツやゲームなどを企画し、リラックスして楽しめる交流の場を提供した。

### 2．居場所づくり支援事業

①ロビー交流企画【再掲】

②自習室

○自習室を毎日開放した。近隣高校生の利用が多く、試験期間には満席になることもあった。

○進路の悩みや報告、家族間での悩みに関する相談につながったり、ボランティア活動やジム利用などの事業につながったりと、青少年との日常的な関係を築くことができた。

### 3．自主活動を支援する・担い手を育成する

①しもせいネット（協力・共催事業）

○バレーボールリーグ（第45期Sリーグ）の実行委員会運営事務局を担った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけ、リーグ戦は中止となった。

○レクリエーション・インストラクター養成講習会：京都府レクリエーション協会が主催するレクリエーションの資格取得に向けた機会を提供した。

○下京区等、行政との関係づくりに取り組んだ。会議体への出席や、事業での協力などを行った。

○運営協力会は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、書面での開催となった。

②しもせいフェスタ

○感染症拡大の影響により、開催を中止した。

③1Dayボランティア

○清掃活動ボランティア（第3土曜日）梅小路公園プレイパーク（第2土曜日）において、単発ボランティアを受け入れた。

○同世代との交流や他の事業参加・相談につながるなどセンターの入口事業となった。

### 4．担い手育成に関わる事業

①プラン・ドゥ（自主活動促進の事業）

○年間を通したボランティアグループのサポート、サークル活動の立ち上げ、ワークショップの開催などの自主活動をサポートした。

○地下空間を展示会場として提供し、高校生や芸大生などによる企画展の開催をサポートした。

②しもせいボランティアネットワーク

○ボランティア説明会、活動評価会、卒業祝いなどを行った。

○企画・運営を有志のボランティアスタッフが担うことで、互いの活動に関する理解を深めたり、相談できる関係をつくったりする機会となった。

③1Dayボランティア【再掲】
④☆レクリエーション集団「よきDELI」【再掲】
⑤インターンや社会教育実習など職場体験の受け入れ
○各大学やコンソーシアムからインターンシップや実習生の受け入れを行った。

## 5. 利用促進と市民認知の拡大につなげる情報発信と広報

①広報事業
○SNSなどを通して、センターでの取り組み状況や、日常の様子を外部に発信した。
○事業を横断したボランティア募集、高校生向けチラシなどを作成し、近隣の学校でセンタークリアファイルを作成し配布することで、センターの認知度向上に向けて働きかけた。
○センターの施設利用と事業の紹介、利用者紹介などをまとめた「KYOTO SHIMOSEI GIDE BOOK」を2回発行した。
②トレーニングルーム
○トレーニングルームの運営及びガイダンスを実施し、利用促進に取り組んだ。
○高校生年代を対象に、平日の利用できる時間帯を限定し（朝、昼、夜の3つから選択）「筋トレ部」を行った。

## 6. 相談・支援の取り組み（就労支援を含む）

①中学生学習支援事業「下京学習会」【再掲】
○高校受験に向け、学習の習慣づけや学力の向上を目指し、週1回の学習会を運営した。
○学校や家庭での悩みについて打ち明ける学習者がいたほか、ボランティアの居場所ともなっていた。
②中学生学習支援事業「洛西スコーレ」【再掲】
○洛西支所、京都経済短期大学、青少年の健全育成を考えるフォーラムと連携し、週1回の学習会を運営した。
○学校や家庭での悩みについて打ち明ける学習者がいたほか、ボランティアの居場所ともなっていた。
③サポステ連携事業（アジプロ、就労体験）【再掲】
○「事務受付」を通じた就労体験「アジプロ」を実施した。事前研修・体験実習（活動のふりかえり含む）・事後研修を通して、就労意欲の向上がみられた。
○「就労体験」の受け入れでは体験者の希望や体力に応じて、仕事内容や勤務時間を個別に設定し取り組んだ。
④相談事業
○青少年に対する情報提供、相談、個別的な支援や支援機関との連携・調整を行った。
○ロビープログラムの「何でも質問」に寄せられた相談に回答した。

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者（のべ数） | その他 |
|---|---|---|---|---|
| まちロゲイニング | 毎週火曜日（6月～11月） | 28 | （196）、Vo.（159） | 下京区、中京区、東山区、南区 |
| ☆レクリエーション集団「よきDELI」 | 隔週土曜日，随時（8月～） | 19 | （243）、Vo.（63） | 梅小路公園、下京区役所 |
| ロビー交流企画 | 通年 | 33 | （917） | |
| 自習室 | 通年 | 232 | （1，854） | |
| しもせいネット | 通年 | 23 | （208） | |
| しもせいフェスタ | 未実施 | 0 | 0（0） | |
| プラン・ドゥ | 通年，随時 | 112 | （710） | センター周辺、他センター、七条商店街 |
| しもせいボランティアネットワーク | 通年 | 3 | （38） | |
| 1Dayボランティア | 第2土曜日（9月～）<br>第3土曜日 | 13 | （91） | センター周辺、梅小路公園 |
| インターン受入 | 8月～9月 | 10 | 2 | 京都女子大学 |
| 広報事業 | 通年 | ― | ― | |
| トレーニングガイダンス・筋トレ部 | 通年，第1・3土曜日 | 60 | （180） | |
| サポステ連携事業 | 1月～3月 | 26 | 5（35） | |
| 相談事業 | 通年 | ― | 125（185） | |
| 中学生学習支援事業「らくさいスコーレ」 | 通年，毎週金曜日 | 38 | （309） | 洛西 |
| 中学生学習支援事業「下京学習会」 | 通年，毎週月曜日 | 42 | （301） | |

## Ⅱ－6　南青少年活動センター

全体の動向

10 代を中心とした若者たちが、多様なモノ、コト、人と出会う場をかれらと一緒につくり、居心地のよいだけではない経験も含め、様々な価値観を知り感じることのできる空間づくりを目指した。また、休館期間にスタートさせたオンライン事業を年間通して取り組むなど、新たな事業を試行した 1 年となった。

### 1．10 代の若者を中心とした居場所づくり事業

10代を中心とした若者たちの‘ヒマ’と‘退屈’な時間のなかで、新たなことにチャレンジする機会、普段の生活を離れてリラックスできる場づくりを行った。

①カフェ・ワカモノ食堂「みなば」

○カフェ「みなば」:コロナ感染予防対策として、駄菓子の販売を行い、感染の状況が落ち着いたあとは、毎週火曜日、木曜日の夕方におにぎりを中心とした軽食の提供に切り替えた。

○カフェの担い手には、大学生、地域住民（1名）がボランティアとして参加したが、感染予防のため、継続的な動きにはならなかった。

②ロビーを活用した事業「みなみーと」

○ロビー事業:ロビーで過ごす若者が気軽に参加できること、かれらのやってみたい企画を実現する場を持ち、花火大会、焼き芋、水鉄砲遊びなどを実施した。

○ロビーボランティア「ろびーずさん」:センターで過ごす10代の若者たちに関わるボランタリーのユースワーカーが、さまざまな企画を行うとともに中学生、高校生と交流する機会をもった。

○オンラインみなみーと:「心理士と心理戦」「デザイナーと絵しりとり」、オンラインを活用したラジオ配信など、オンラインを活用した企画を年間通じて実施した。

③フリータイム／自習室

○予約不要でセンターの施設を利用できるフリータイム、自習室の提供を行った。今年度は、市民のみなさんからたくさんの教材の寄付をいただき、自由に利用できるスペースを確保した。

④お昼間に何かができる場所「おひるまユース」

○比較的利用が少ない昼間にゆっくりすごせる場の提供を目指し、京都わかくさねっとの協力を得て、月2回カフェを開催した。また、他者と関わりが難しい若者への面談や個別の活動を行い、既存の事業との橋渡しを行った。

⑤みなみオープンデー

○新中学生がセンターをお試しで使用できるプログラムを実施し、地域の小学生が参加した。

### 2．居場所づくりを支援する

①ボランティア育成／インターンシップ受け入れ

○京都女子大学、天理大学、大学コンソーシアム京都ほか、実習生の受け入れを行った

○ロビーボランティア「ロビーズさん」、「学習支援ボランティア」の募集、養成を実施した。

②ボランティア体験事業「ふらっと♭」

○地域行事が縮小されるなか、新たな活動場所を確保することが今年度の課題であった。

○南区社会福祉協議会との連携で高齢者向けスマホ教室を体験場所とした。

### 3．地域交流・連携・参加に取り組む

①清掃活動ボランティア「ひろいーな」

○多くの参加があったが、継続的な参加にならず課題を残すこととなった。

○地域清掃の中止が続き、活動が限定的であった。

②地域協力・連携事業「南区ワカモノネットワーク」

○地域団体、行政機関との会議の中止が相次ぎ、これまであった顔の見える関係が薄れており、気軽に相談できる機会をどう作っていくかが課題である。

### 4．広報事業

①広報事業

○南区内中高の生徒への配布する「南だより」を 4 回発行した。

○地域住民向けのチラシを作成配布し、新聞折り込みをすることで、問い合わせは増えた。

②WEBツールを用いた広報

○Facebook、Twitter など各種SNSの特徴を把握しながら、広報を行った。

○ホームページのトップ画面を一新するなど、新しさを強調した。

## 5. 相談支援事業

①センター相談事業

○職員の力量形成のため研修への参加を促し、職員間でケースの検討を定期的に実施した。

○コロナ禍での悩む学生からの相談をきくことができた。

②中学生学習支援事業

○生活保護世帯、困窮世帯等、学習環境が整いにくい中学生の学習支援「南学習会」「まなびーや」を実施した。

○小学校に行けなかった 10 代の女性の学び直しや学校からの紹介された中学生など、学習者の背景が異なり個別対応もしながら同じ場で受け入れた。

③就労体験事業「ハタプロ」:サポートステーションとの協力事業

○これまで取り組んできた、喫茶での接客体験から新たな取り組みを模索した。

○地域団体の協力を得て、農作業体験に取り組むことになった。

④社会的養護施設退所者等交流事業「いこいーな」

○施設退所者の若者を対象にした月に一度の交流会。コロナの感染予防のためは、調理は中止し、テイクアウトの食事やオンラインでの参加を可能にするなど工夫しての実施となった

○参加者がプログラムに愛着をもちはじめ、自分たちで運営する姿が見られるようになった。

⑤「ぴあサポート事業」

○ひだまり部:参加者が集まらず年度途中で事業を終了とした。

○にじーず@みなみ:LGBT とそうかもしれないと思っている 13 歳～23 歳の若者の居場所事業。「にじーず」の協力を得ながら、2 か月に一度のペースで実施し、毎回、安定した参加があり、当事者の若者にとり居心地のよい場を提供できた。

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者(のべ数) | その他 |
|---|---|---|---|---|
| ワカモノ食堂「みなば」 | | | | |
| おにぎりカフェ | 毎週火・木曜日 | 51 | (342) | |
| だがしや　みなば | 通年・随時 | 187 | (1214) | |
| フードパントリー | 毎月第4土曜日 | 6 | (280) | |
| アルファ米カフェ | 2／20より随時 | 18 | (72) | |
| みなみーと | | | | |
| ロビー掲示 | 随時 | 8 | (400) | |
| オンラインみなみーと | 随時 | 23 | (284) | |
| おてつ隊 | 随時 | 23 | (50) | |
| ロビーイベント | 随時 | 8 | (177) | |
| フリータイム／自習室 | | | | |
| フリータイム | 毎日 | 215 | (1583) | |
| 自習室 | 毎日 | 271 | (888) | |
| おひるまユース | | | | |
| 個別活動 | 随時 | 12 | 3(15) | |
| わかくさカフェ | 第2・4金曜日 | 10 | (91) | |
| みなみオープンデー | 3／24～3／28 | 1 | (2) | |
| ボランティア育成／インターシップ受け入れ | | | | |
| ボランティア説明会 | 随時 | 31 | (33) | |
| インターンシップ・実習生受け入れ | 随時 | 53 | 8(62) | |
| 南学習会ボランティア | 毎週木曜日 | 43 | 8(119) | |
| まなびーやボランティア | 毎週火曜日 | 39 | 6(57) | |
| みなみーとボランティア | 随時 | 49 | 14(95) | |
| みなばボランティア | 毎週火・木曜日 | 20 | 2(46) | |
| ボランティア体験事業「ふらっとｂ」 | 随時 | 4 | 18 | |
| 清掃活動ボランティア「ひろいーな」 | 毎月第4土曜日 | 12 | 27(39) | 11/27　鴨川清掃 |
| 南学習会 | 毎週木曜日 | 44 | 17(236) | |
| まなびーや | 毎週火曜日 | 39 | 7(137) | |
| 就労体験事業「ハタプロ」 | 11/16 | 1 | 8 | 南区久世築山町 |
| いこいーな | 毎月第3土曜日 | 10 | 7(48) | |

## Ⅱ－7 伏見青少年活動センター

全体の動向

今年度は、ワーカーの顔ぶれが大きく入れ替わり、関係づくりをイチから再構築するところからのスタートとなった。積極的・意識的に利用者へアプローチを行うことに注力したため、センターらしい“雑談から相談へ”とつながるケースが多々見られた。コロナ禍ではあるが、その中でも利用者間で交流できる場面を設けようと、職員の得意分野を活かした企画を実施した結果、「楽しい場所」というイメージは定着してきた。半面、海外ルーツの若者へのアプローチはなかなか進まず、伏見センターらしい特色を出すところまでは至らず、課題となっている。

### 1. 多文化共生事業

①にほんご教室

○月3回土曜日午前中に実施。海外にルーツをもつ方に対して、青少年ボランティアが日本語を教え、互いに多文化理解の場となった。休館中にはオンラインでのにほんご教室開催に挑戦し、マスクを外して会話ができることで学習者ボランティア双方の満足度は高かった。

②Switch

○未実施

③ふしみんまつり

○未実施

### 2. 居場所づくりを支援する

①ロビーアクション（多文化交流プログラム）

○JTL（Japanese Talking Lesson）：海外ルーツの青少年と日本ルーツの青少年が気軽に日本語で話し合える場を設け、お互いの文化を知り合う機会となった。海外ルーツの青少年の参加が少なく、日本ルーツの青少年とのバランスに苦慮したが、毎回楽しみに参加している青少年にとって居場所としての機能を果たしていた。

○掲示物やイベントの企画：「利用者と職員」「利用者と利用者」の相互理解が深まるよう、掲示板を使った意見募集や、季節にあわせたミニイベント（ハロウィンなど）を実施した。また世界のイベント「ピニャータ」や「イースター」にちなんだロビープログラムを実施し、「多文化共生事業」を意識したプログラム展開を行った。

○カフェ型プログラム：近隣のカフェから提供いただいているバナナを活用したカフェ型プログラムを実施予定だったが、コロナ禍のため１回のみの実施となった。

○自主活動支援：夏休み期間中、現役大学生による「勉強お助け会」を実施した。

### 3. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①ボランティア育成・インターンシップの受け入れ

○ボランティア91名、3大学から実習・インターンシップ生を10名受け入れた。

○インターン生（留学生）が主導となり、台湾のお祭りを紹介する企画を実施した。

○ボランティアと個別面談を行い、活動に対するふりかえりの場面を設けた。

### 4. 地域交流・連携・参加に取り組む

①地域連携事業

○はぐくみネットワーク、思春期教室（区はぐくみ室）等の行政・地域団体などの取組に積極的に参加し、若者を巡る諸課題について提案や情報交換を行うとともに連携できるネットワークづくりを構築した。

○行政が行うイベントへ、若者グループを積極的に紹介した。

○地域で活動する団体の協力により、ロビーギャラリーや音楽をツールとしたロビーイベントを実施した。

### 5. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①情報発信事業

○近隣の3中学校の新中学 1 年生向けにオリジナルクリアファイルとパンフレットを配布した。

○Twitterでの情報発信に注力した。あわせて、積極的に若者グループをフォローした。

○LINE公式アカウントの運用を開始した

②フリータイム・自習室・ロビーパソコンの設置

○軽スポーツができる場として連日15～18時（土は14～17時）にスポーツルームAを、ダンスができる場として火・木・土・日・祝日15～18時に中会議室ABを、それぞれフリータイムとして開放した。

○自習室での密を避けるために、ロビーの一角も自習室にしつらえ、開放した。

○ロビーに30分100円で使えるパソコンを設置した。

③ふしみんオンライン

○メディアパブスタジオを活用し、オンライン環境が整いにくい若者に対して、オンライン環境を提供した。

## 6. 相談・支援に取り組む

①相談・情報提供事業

○相談・情報提供は91件148回（内、青少年64件116回）であり、前年度比較 2 件増加，44回減少となった。

○相談機関との連携を深める中で、第二児相から2名のリファーがあった。（昼間の居場所、学習支援）

②サポートステーション職業体験事業

○京都若者サポートステーションと連携し、「アジプロ事務所体験」を2クール実施した。

③中学生学習支援事業 STEP／おかわりSTEP

○毎週木曜日（長期休み期間は毎週2回）学習支援活動を実施（愛称：STEP）、1月以降は受験生対策として毎週月曜日にも実施した（愛称：おかわりSTEP）。中学校3年生の登録者6名全員が高校へ進学した。

○伏見区担当課、及びケースワーカーを対象に活動内容についての研修会と意見交換を実施した。

④中学生学習支援事業 向島ぷらす

○市営住宅の集会所にて毎週土曜日実施。休館中にオンライン学習会を実施した。中学校3年生の登録者3名全員が高校へ進学した。

⑤中学生学習支援事業 深草町家学習会

○龍谷大学深草町家キャンパスにて毎週木曜日に実施。休館中にオンライン学習会を実施した。中学校3年生の登録者6名のうち4名が高校へ進学、2名は確認中。

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者（のべ数） | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 多文化共生事業 | 通年 | 10 | （484） | |
| にほんご教室 | 通年<br>（月3回程度） | 35 | 19（151）<br>Vo.24（214） | ボランティアミーティング、オンライン含む |
| Switch | － | － | － | 未実施 |
| ふしみんまつり | － | － | － | 未実施 |
| 居場所づくり支援事業 | | | | |
| JTL | 通年<br>（月2回程度） | 17 | 22（70）<br>Vo.15 （80） | ボランティアミーティング含む |
| 掲示・イベント企画 | 通年 | 39 | （1218）<br>Vo.3 | |
| カフェ型プログラム | 通年 | 1 | （24） | |
| 自主活動支援 | 通年 | 1 | 11 | |
| 担い手育成事業 | | | | |
| ボランティア育成・インターンシップ受入 | 通年 | － | 10 | インターンシップ生のみ。ボランティアは各事業で計上 |
| 地域連携事業 | | | | |
| 地域連携事業 | 通年 | 7 | （260） | |
| 利用促進・情報発信事業 | | | | |
| 利用促進・情報発信事業 | 通年 | － | － | |
| 自習室 | 通年 | 241 | （3352） | |
| フリータイム（ダンス） | 通年 | 99 | （302） | |
| フリータイム（スポーツ） | 通年 | 224 | （2564） | |
| ロビーPCの設置 | 通年 | － | （90） | |
| ふしみんオンライン | 通年 | 12 | （23） | |
| 相談支援事業 | | | | |
| 相談・情報提供事業 | 通年 | － | 91（148） | |
| サポートステーション職業体験事業 | 6月，12月 | 11 | 5（33） | |
| 中学生学習支援事業「STEP」 | 通年 | 54 | 21（226）<br>Vo.13（258） | ボランティアミーティング、オンライン含む |
| 中学生学習支援事業「向島ぷらす」 | 通年 | 39 | 11（97）<br>Vo.7（96） | ボランティアミーティング、オンライン含む |
| 中学生学習支援事業「深草町家」 | 通年 | 53 | 20（268）<br>Vo.32（396） | ボランティアミーティング、オンライン含む |

## Ⅲ　京都若者サポートステーション受託事業　（厚生労働省及び京都市委託）

全体の動向

無業状態の15歳から49歳までの学籍のない若者（※一部例外あり）に対し、職業的自立に向けた支援を行う事業として厚生労働省及び京都市より委託を受け、運営した。外部機関との連携や、複雑化・複合化した課題を有する若者の登録、リファーに力を入れたことから、新規登録者数の達成率は 73%となった。就職等数においても、専門相談と職員相談、プログラムの連携強化により、幅広い層の就職が達成され、83%の達成率となった。

### 1. 個別相談支援事業

①インテーク面談

○主に常勤スタッフが、相談者の思いや状況を聴く初回面談を実施。今年度より、相談申込票を導入し、通院歴や家族構成などの情報が掴みやすくなった。また、オンラインで、新規の相談問合わせにも対応した。

②サポステオリエンテーション

○就労に向けたステップ、サポステの利用方法や実施するプログラムの内容について紹介を行った。利用者の間でサポステの使い方、支援の進み方に対する理解が深まり、利用の見通しが持てるようになった。

③専門相談・個別支援

○専門相談員である臨床心理士によるこころの相談（水・木・金曜）、キャリアコンサルタントによるキャリアの相談（月・火・土／日曜）を実施。常勤職員が、専門相談員の担当に付き、ケースの進捗把握、内外資源の情報共有を行い、状況にあった支援を円滑に行えるようになった。

④定着・ステップアップ支援

○就職者数増の影響もあり、安定就労を目的とした就労決定後の様子伺いや継続的な関わり、途切れない支援を心掛けたため、相談件数は増加した。

### 2. 就活基礎力

①イマココ

○マインドフルネスの手法を用いて、「今ここ」の自分自身の状態を客観視しつつ、心身のリラックスを体感し、緊張緩和するプログラムを実施した。

②キャリコロ

○コミュニケーションへの緊張緩和・多様な価値観に触れることを目指し、テーマ・話題を決めて少人数～多人数で話す「キャリコロ」、職場での悩みや、働くことについての意見交換を通して職場でのコミュニケーションの改善につなげる「ワーコミ」、女性限定の「女子会」などを実施した。

③身体表現を用いたコミュニケーションワーク（インプロ）

○インプロビゼーション（即興演劇）の手法を用いて、表現することを体験的に学ぶプログラム（山科）や、即興でのダンスの手法を用いて、表現することを体験的に学ぶプログラム（東山）を実施した。

④サポの YOU

○サポステ内外の居場所機能を拡充することを目的に実施。「Zoom」を通した、オンライン上の出入り自由のオープンスペース「内湯（愛称：サポカフェ）」、サポステ職員と一緒に、青少年活動センターの居場所事業や１日ボランティア活動を体験する「外湯」を毎月交互に実施した。

### 3. 就活実践力

①チートレ

○月1回の発送作業で、役割分担し作業する体験を通して、協働で働くことを体験的に理解できるよう実施した。

②自分を知って仕事に就こう

○過去の経験や現在の自己イメージを明確にし、将来ビジョンを作成し、実行可能なキャリアプランを作成する講座を実施した。

③面接対策講座

○模擬面接の様子を映像でふりかえる作業を通して、面接の所作を学ぶ講座。面接で想定される質問に対する回答を考えたり、選考に関する情報提供や履歴書の書き方について、特に志望動機・自己 PR を作成する際のポイントを学んだりする2つの講座を実施した。

④先輩との座談会

○現在就労中のサポステ登録者の体験談を聞くイベントを実施。就労中の登録者にとっては、自身の経験をふりかえる機会となり、現在利用中の登録者にとっては、インプロなどのプログラム参加の動機づけとなった。

## 4. 就業体験事業

①職場体験プログラム

○中小企業家同友会・就労支援ネットワーク「いっぽねっと」の協力を得つつ実施。4名が体験に参加し、うち2名が体験先での就労に結びついた。

②ジョブトレーニング

○昨年度はコロナ禍により見送った水尾地域の柚子加工組合での仕事体験が再開。また、久世の農家での農作業体験「ハタプロ」(南)や、NPO 法人 Happiness でのお弁当詰め体験作業を実施した。

③センター就労体験「アジプロ」

○青少年活動センター内での就労体験プログラム(伏見・下京)を実施。丁寧に体験をふりかえるプロセスを踏むようにした。

④仕事について、聞く、見る・やってみるプログラム

○「いっぽねっと」の協力を得て、サポステ登録者と中小企業経営者との交流会、職場見学会を毎月実施。緊急事態宣言下には、オンラインで交流会を実施した。

## 5. 保護者支援事業

①親こころサロン

○無業状態の我が子との関わり方について悩む保護者が、捉え方・関わり方を学ぶプログラムを実施した。

## 6. サポステ認知拡大・新規登録者獲得・関係機関との「顔の見える」関係構築事業

①地域出前相談会

○ハローワーク京都七条での出張相談を、緊急事態宣言期間中を除き毎月実施。

②広報事業

○支援機関等に定期的な情報発信を行い、出前相談やインテークへの申込み、サポステ利用に関する説明会実施へと繋がった。

③学校連携(大学・高校)

○京都・なんたん地域における高等学校・大学との顔合わせを主にオンラインで実施した。また、従来卒業式に訪問していた京都産業大学に加えて、ノートルダム女子大学でも、卒業生を対象にした出前相談を行った。

④他機関連携(就労・福祉・医療機関/企業/ネットワーク)

○ジョブパークやハローワーク、京都市ひきこもり地域支援センター等の支援機関と、相互支援理解や連携窓口の設定などの連携を行った。

## 7. 常設サテライトの運営

①常設サテライト運営

○個別相談支援、サポステ周知、機関連携、出張相談等の事業を実施。また、ネットワークに積極的に参加し、情報共有の機会を有効に活用する他、具体的な連携を模索した。

②常設サテライトにおけるプログラム実施

○前述の就活基礎力を元にしたプログラムの実施を行った。

＜行事一覧＞

| 事業名 | 実施期間 | 回数 | 参加者・のべ数 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| オリエンテーション | 4～3月 | 21 | (50) | |
| イマココ | 4・6・7・9～3月 | 14 | (58) | 山科・東山センター |
| キャリコロ(ワーコミ/女子会含む) | 4・5・7～3月 | 26 | (99) | |
| 身体表現を用いたコミュニケーションワーク | 8月/11月/1～2月 | 14 | (112) | |
| サポのYOU | 通年 | 14 | (38) | 下京・伏見・北・南センター/Zoom |
| チートレ | 4・7・8・10・12～3月 | 8 | (32) | |
| 自分を知って仕事に就こう | 6～7月/8～10月/12月/2～3月 | 12 | (67) | |
| 就活面接講座(基礎編/応用編) | 4～11月・1～3月 | 18 | (59) | |
| 先輩との座談会 | 8月 | 1 | 7 | |
| ジョブトレーニング(ハタプロ/ゆずしぼり体験/お弁当詰め作業含む) | 11月/11月～12月/1～2月 | 7 | (12) | ハタプロ=久世<br>ゆずしぼり=水尾 |
| センター就労体験(アジプロ) | 7月/11～12月/2月 | 17 | (45) | 伏見・下京センター |
| 仕事について、聞く、見る・やってみるプログラム | 7～9月/11～12月/3月 | 8 | (45) | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 親こころサロン | 9～10月／2月 | 5 | 43(のべ) | |